

「あっという間に時間が過ぎる例会時間（卓話）」について



例会の時間が“アッ”という間に過ぎる要件を考えてみました。

先ず「卓話」について。

自分の知らない知識や感性に触れた時、あっという間に時が過ぎます。業種業態の異なる方のお話、趣味趣向の異なる方のお話、経営理念に触れた時などがこれに当たります。「アハッとする発見・気づき」をもたらしてくれるクイズ形式の卓話も、あっという間に時が過ぎます。ほかに、漫談師や落語家のような話芸をお持ちの会員、私にとっては高田敏夫会員、谷口会員、松本会員のお話にも、いつも引き込まれてしまいます。

次に「テーブル席でのお話」について。

テーブル席のお話の多様性について、出席者 25 名の時と 50 名の時とで「人の組合せ」で多様性を計算してみました。

2 名席の組合せでは、 $(25 \times 24 \div 2) \div (50 \times 49 \div 2) \doteq 1/4$ 、3 名席では、 $(25 \times 24 \times 23 \div 3 \div 2) \div (50 \times 49 \times 48 \div 3 \div 2) \doteq 1/9$ 、4 人席では、 $\doteq 1/18$  になり、出席者数の減少が多様性を大きく損なうことが見てとれます。

2006 年と 2018 年、皆さんにご協力いただき作成した「社是・経営理念・好きな言葉」の一覧をご覧ください（資料は後日レターケースに配布させていただきます）。70 余名の会員の、職業や経験を背景にたどり着いた、唯一無二の考えが並んでいます。私は、この文言を見ると心が元気になります。ロータリークラブに入会してよかったと心底思います。

私が兎にも角にも会員を増やそうと考える源流がここにあります。皆さん、会員の増強に懸命になりましょう。

さてここからは、私の本業であるプラスチックの真実についてお話をさせていただきます。

本業の発泡スチロールについて、段ボールの原紙メーカーにいじられ続けてきた

- ① 発泡スチロールは石油由来で、環境に負荷をかける素材？
  - ② 段ボールはリサイクル率が高く、環境保全にマッチした素材？
- の是非について、次のような事実をご紹介します。

32 インチ液晶テレビ用の衝撃吸収材を、発泡スチロールと段ボールで、同じ性能が出るようにつくって比較した環境負荷（消費エネルギーと CO2 排出量）データによると、発泡スチロール製は段ボール製よりも

- ・ 34%消費エネルギーを少なくできる
- ・ CO2 の排出量は 40%削減できる

というものです。これは、2023 年 12 月に産業情報研究センターが発表した公のデータです。

汎用プラスチックの中では、重量当りの環境負荷が高い発泡スチロールですが、適所に適量を、天然素材の段ボールなどと組み合わせて使用することで環境負荷を抑制できるという一例です。

他にもこのようなデータがあります。2023年国内の発泡スチロール生産量は10万ト強、リサイクル率は約92%。段ボール原紙の生産量は約1000万ト、リサイクル率は85%前後。つまり毎年150万ト程のバージンパルプをつくるために、森林伐採が行われています。

私どもは、発泡スチロールを「車を軽量化し低燃費」に、「200年持続する断熱性能を住宅や工業製品の省エネ化」に取り組んでいます。

2018年の集計では、日本に輸入された化石燃料の総量は4億2030万ト。化学繊維やタイヤを含むプラスチック等への使用は総量の7.2%、約3000万ト。低炭素社会を本気で語り、取り組むのなら、燃料や発電に使用された3億9000万トの化石燃料のたった7.7%、効率をカイゼンし削減すれば、プラスチック等の使用ゼロに匹敵する化石燃料を削減できます。

低燃費車に乗り換える、工場や事務所・ご自宅の家電製品を省エネ設備に交換する、ご自宅を高断熱化する、などに取り組んでみてはと思うのは、私の職業的偏見でしょうか？御一考ください。